

🐉九月三日、夏休みを終えてまた、子どもたちが学校に戻ってきました。二学期の開始です。始業礼拝で子どもたちに、次のような話をしました。

+++++

お久しぶりです！夏休み中、早寝早起き朝ごはん、元気に過ごせましたか。突然ですが、今日九月三日は、ある人の誕生日です。君たちのよく知っている、あるロボットと言った方がよいのかもしれませんが。あつ、何人か手が挙がりました。そう、「ドラえもん」の誕生日なのです。さすがによく知っていますなあ。

ドラえもんは、二二二二年の九月三日生まれ。未来からやって来たというロボットなのだそう。二二二二年のおしりの一二と九と三を合わせると二二九三。ドラえもんの身長は129.3cm、体重129.3kg。ロボットだから随分と重いかもしれませんが。胸のまわりも129.3cmなのだそう。

なんで129.3にこだわるのか。この漫画の原作では、のび太君は小学校四年生の設定。この当時の小学四年生の平均身長が129.3cm。子どもたちを見下ろすことなく、同じ目線で見られるようにという思いから、この数字が出てきたようです。

ちなみに、立教小学校の四年生の一学期の平均身長は134.4cmだと、養護の先生が調べてくださいました。夏休み明けの今、測

つてみるともつと伸びているでしょう。「のび太君の身長よりものびた。」という訳ですね。

さて、話を交えましょう。二〇二〇年七月のこと。中国の四川省、マーボ豆腐などの辛い料理が有名な土地です。そこで大雨の後に、ひっくり返った板のような岩に、四つの足跡が見つかりました。連絡を受けて駆けつけた北京の大学のシン先生という方が、詳しく調査したところ、新種の恐竜であることが分かりました。その名は「エウブロンテス・ノビタイ」。ラテン語の「エウ」は、「真の」とか「本物の」意味。「ブロンテス」は「地響きとか雷」の意味。ラテン語は、人の名前には「イ」をつけて表すので、「ノビタイ」に「イを」付けて「ノビタイ」。日本語にするなら、「本物の雷のようなのび太君」と言ったところでしょうか。エウブロンテス・ノビタイは、足が三本指で31cm。身長は、4mの肉食恐竜だったようで、今から一億二五〇〇万年前に、地響きを立てて歩き回っていたようです。今ここにいたとしたら、この教室よりも背が高く、「肉食」ですから、ぼくたちは「エサ」になっていたかもしれない。



シン先生は子どものころから「ドラえもん」

のファンだったようです。シン先生の思いのこもった、のび太君の名前を持つ本物の恐竜がいたことを知っておいてください。

ところで、「のびる」という言葉は、良い意味も悪い意味もある不思議な言葉のようです。「成長する。長くなる、高くなる、大きくなる、広がる」といった、伸びる、向上する、盛んになるという良い意味や、「そばがのびる。」のように、ぐにやぐにやになって味が落ちる意味や、「先生、〇〇君がのびてます！」のように、ひどく疲れて、ぐったりとして動けなくなるようなときにも使います。今の君たちの状態は、ノビノビとした、力があふれて、エネルギーのある方の「のびる」でしょうか。それとも、倒れて動けなくなる方の「のびる」でしょうか。

君たちの中には、夏休み中、恐竜のようなお母様!?!に吠えられ続け、学校が始まって、かえってノビノビとしているというような人もいます。あつ、手を挙げなくてもいいです。後で大変なことになるかもしれないからね。

ぐにやぐにやで、倒れる寸前の気分の人もいるかもしれません。まだ、暑いしね。少しずつ軌道修正をして、学校生活に慣れていってください。辛くて仕方がない、悪い意味で「のびそう」な人、「のびた」人は、保健室や校長室に顔を出してください。

(立教小学校校長 田代 正行)